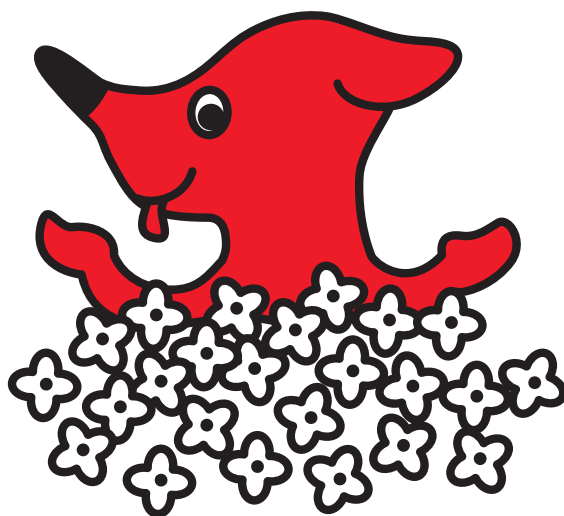


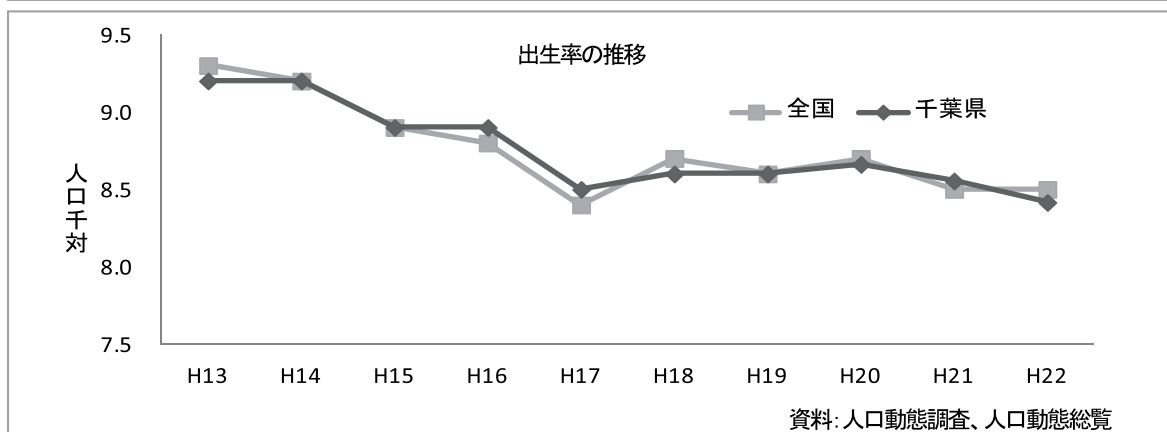
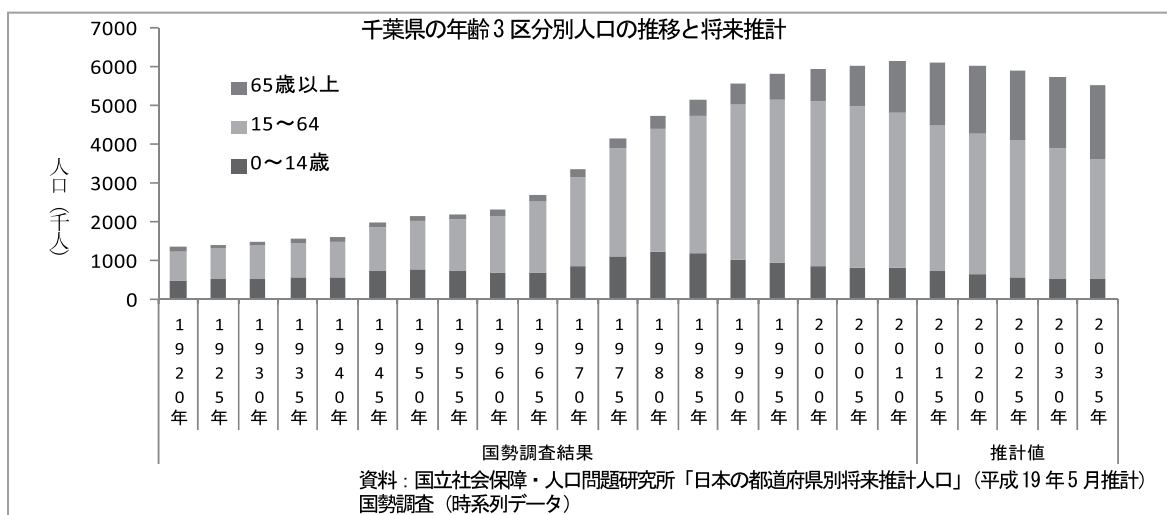
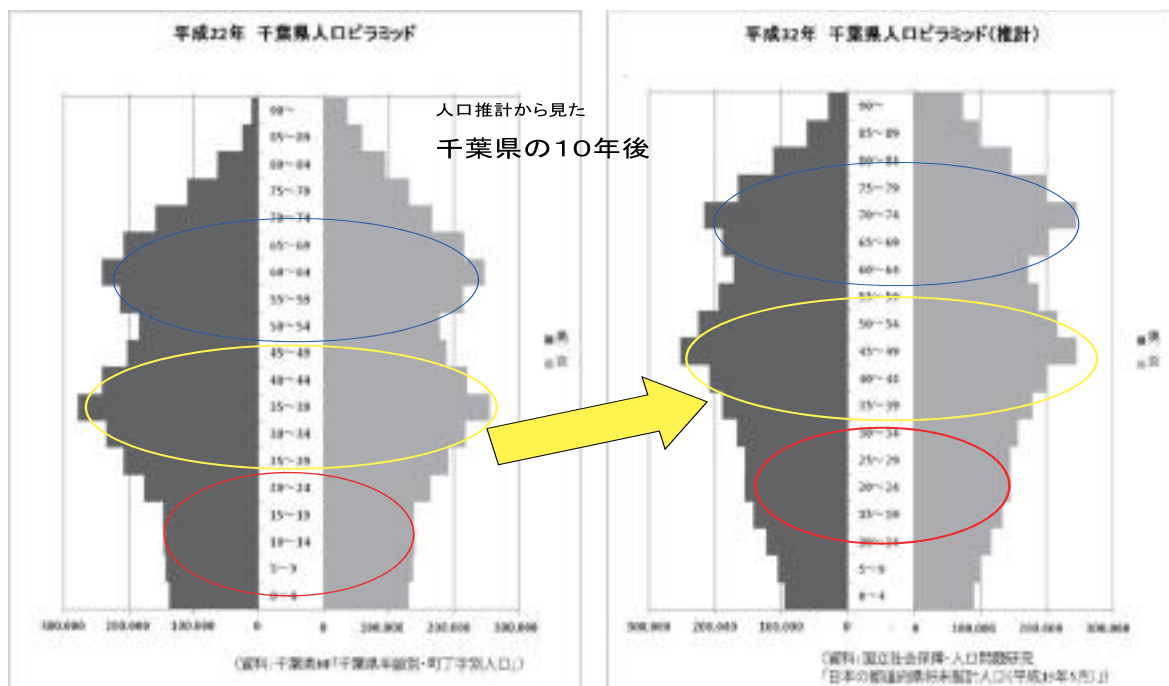
資料 2

- ・ 県民の主な健康課題



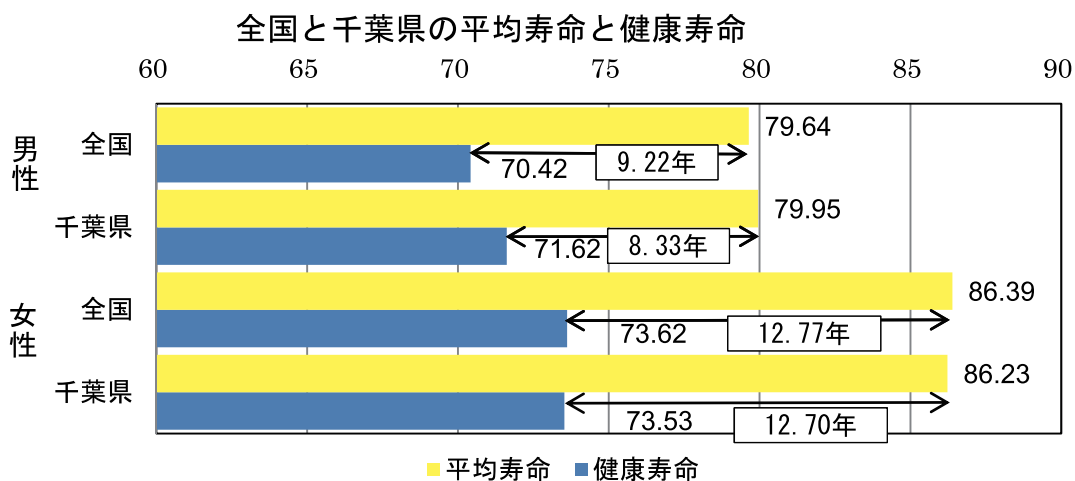
I 人口構成

千葉県は首都圏のベッドタウンとしての発展に伴い、団塊の世代の流入や近年の出生率の低下により、少子高齢化が急速に進んでいます。高齢化の速度は平成27年までの期間においては、埼玉県に次いで2番目となっています。



Ⅱ 健康寿命（平均自立期間）

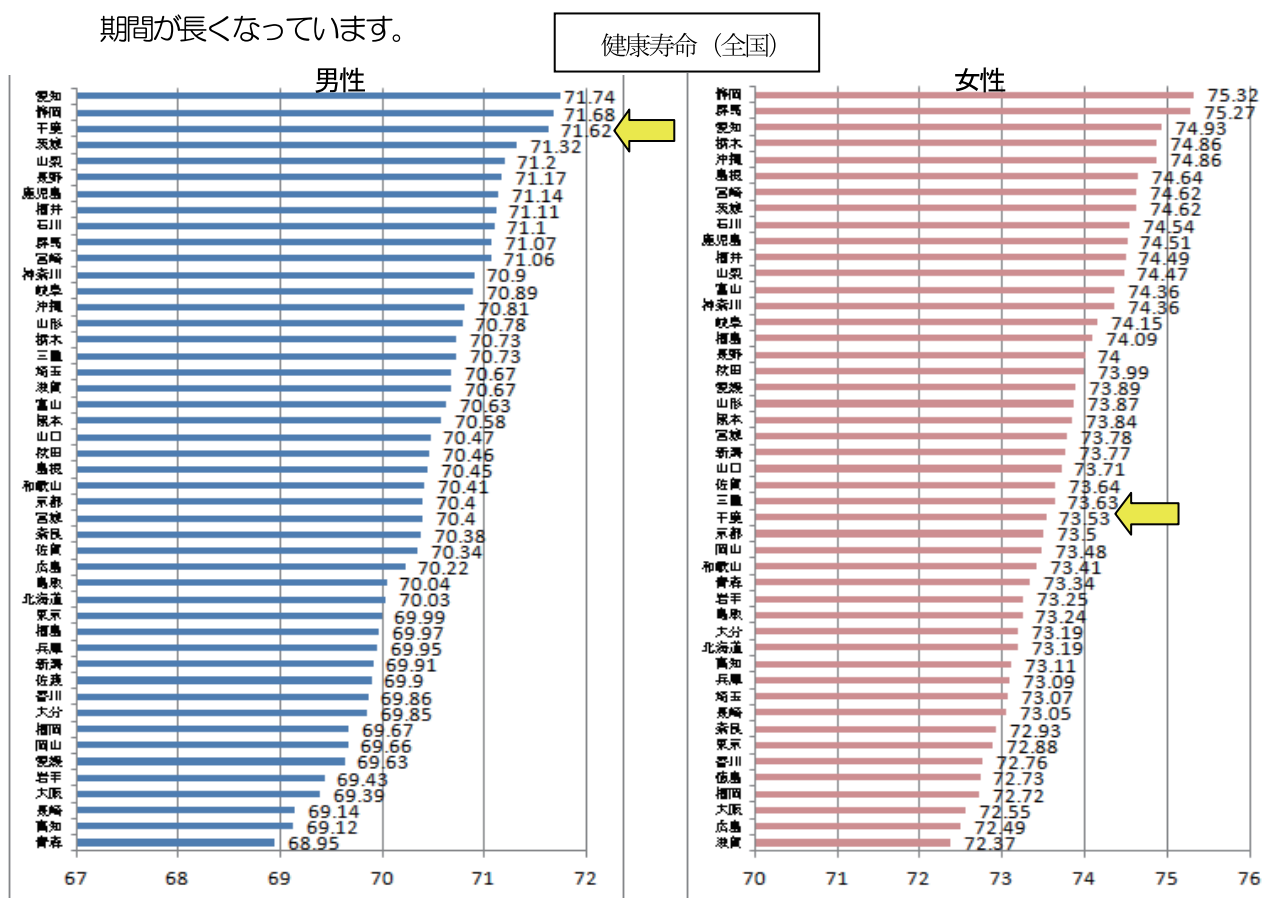
千葉県民は平均寿命、健康寿命とも、男女共に伸びています。男性は65歳以上の平均余命の伸びに加え健康寿命の伸び率が女性を上回っています。



(資料：厚生労働科学研究費補助金「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用に関する研究」) (平成22年)

◇健康寿命の性差

男性は平均寿命、健康寿命共に全国上位にあります。女性は全国平均よりやや低く、女性の要介護期間が長くなっています。



最長と最短の差 2.79 年

最長と最短の差 2.95 年

資料：厚生労働科学研究費補助金『健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究』

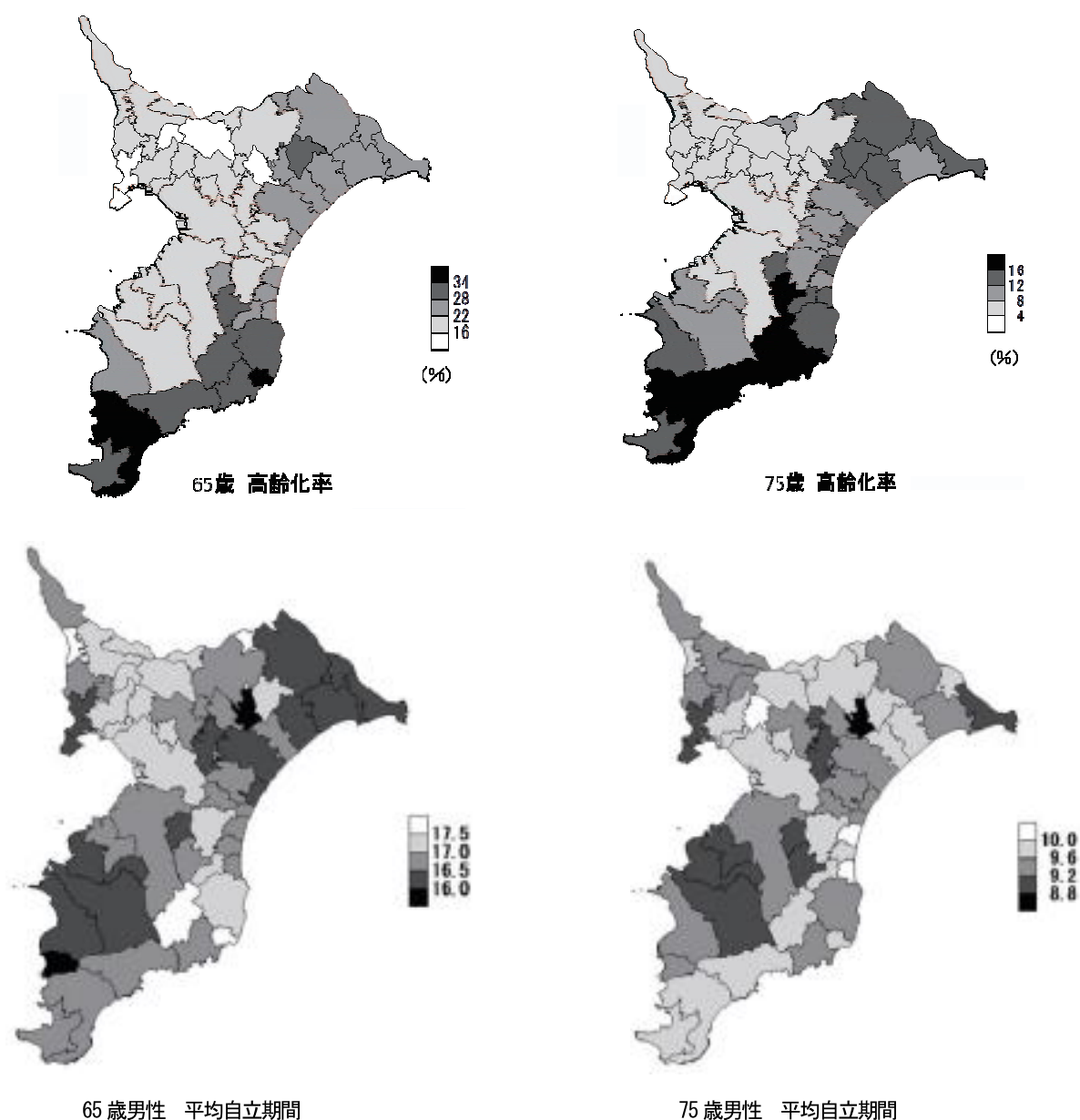
◇ 健康寿命の地域格差

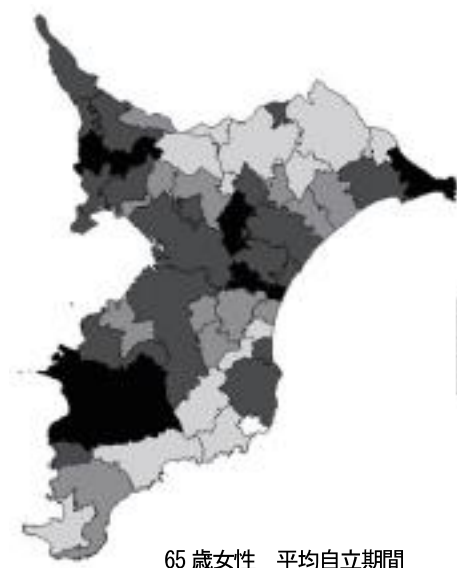
本県の高齢化率は、最も低い浦安市12.8%から、最も高い御宿町40.8%まで、地域格差が大きい状況です。夷隅・安房地域をはじめ太平洋沿岸部での高齢化が進んでいます。

65歳・75歳の平均自立期間が比較的長い地域は安房地域で、君津・海匝地域では介護を必要とする期間が比較的長い傾向があります。

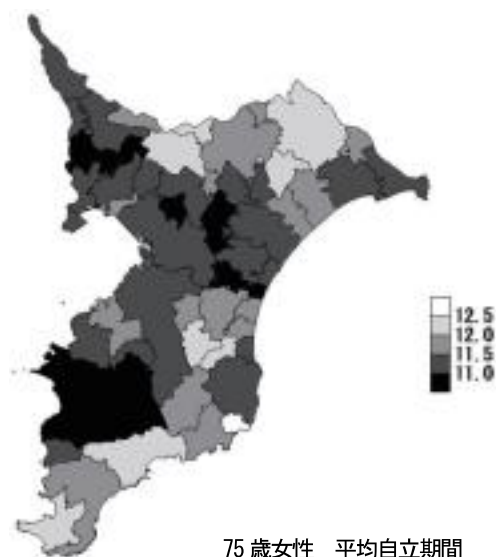
また東葛北部・南部地域をはじめ、首都圏のベッドタウンとして団塊の世代が多い地域においては、今後急速に高齢化が進むことから、健康寿命については特に注目する必要があります。

高齢化率と65歳75歳の平均自立期間





65 歳女性 平均自立期間



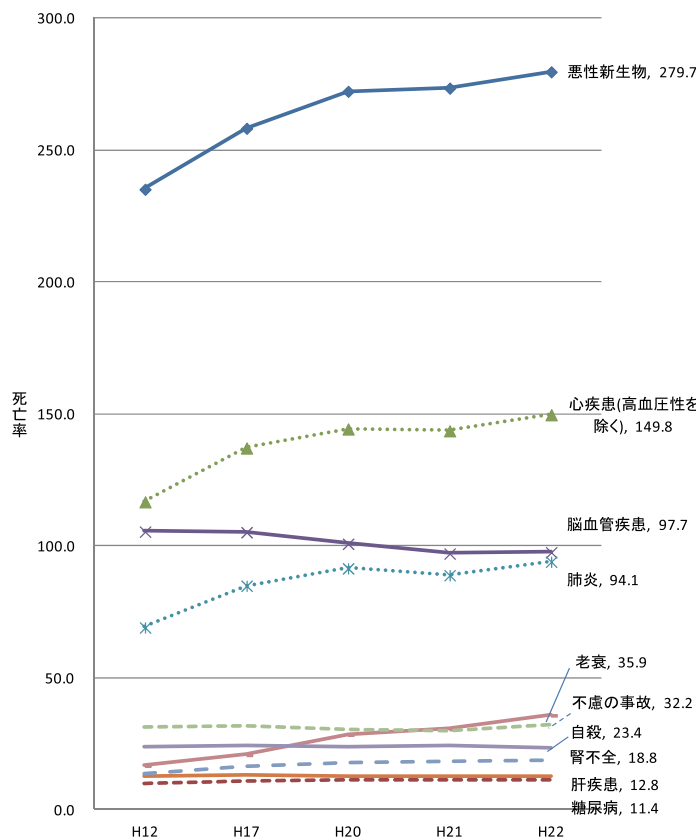
75 歳女性 平均自立期間

資料：千葉県ホームページ 千葉県年齢別・町丁目別人口「県内市町村別の高齢者人口（各4月1日現在）」（平成20年）
平均自立期間算定プログラムによる算出（厚生労働科学 健康寿命研究）

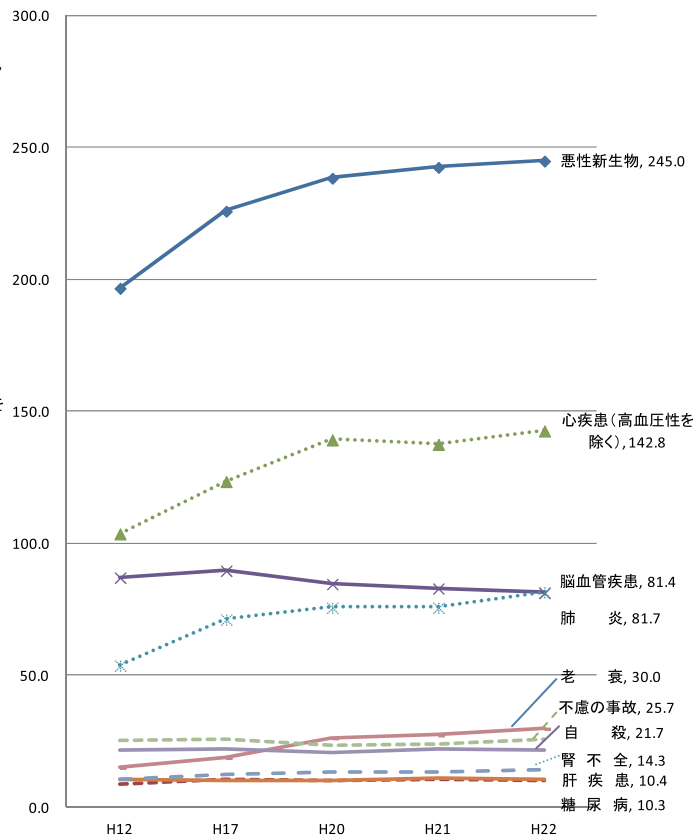
Ⅲ 死亡

千葉県民の主要死因の第1位はがん、第2位は心疾患（高血圧性を除く）、第3位は脳血管疾患に代わり肺炎となり、いずれも増加傾向です。全国同様、本県でも脳血管疾患による死亡率は減少傾向にあります。が、全国調査結果によると脳血管疾患は介護が必要となった最も多い原因となっています。

10死因で見た全国の死亡率推移



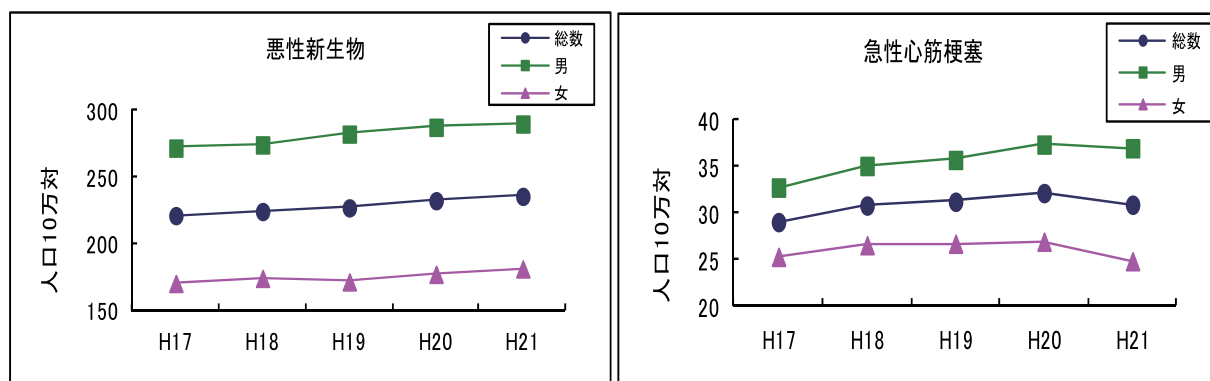
10死因で見た千葉県の死亡率推移



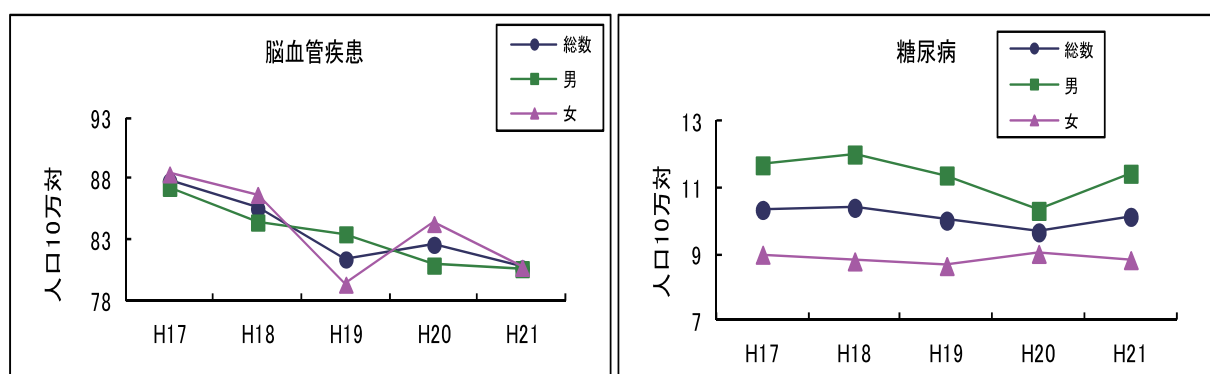
(資料：人口動態統計)

千葉県的主要死因の粗死亡率推移（H17～H21 年）

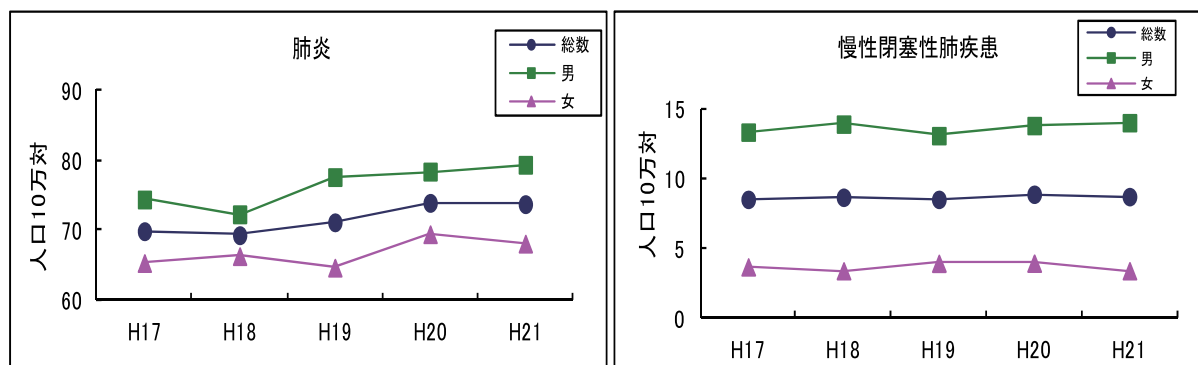
がんの粗死亡割合は、男女共に増加傾向にあり、男性が女性の1.2倍となっています。急性心筋梗塞の粗死亡割合は、男性は女性の1.3倍で、男女共微増傾向から、減少傾向への兆しがみられます。



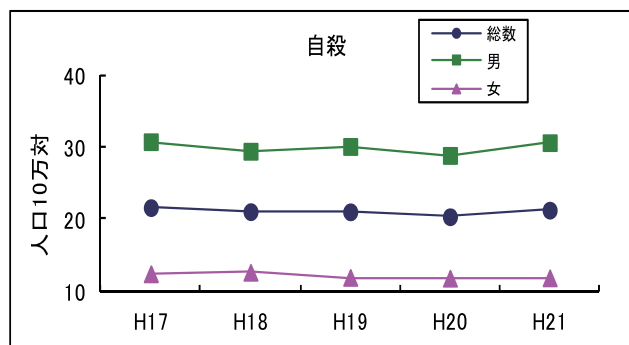
脳血管疾患の粗死亡割合の男女差は小さく、ともに減少傾向にあります。糖尿病の粗死亡割合は、男性が女性より高く、ほぼ横ばいです。



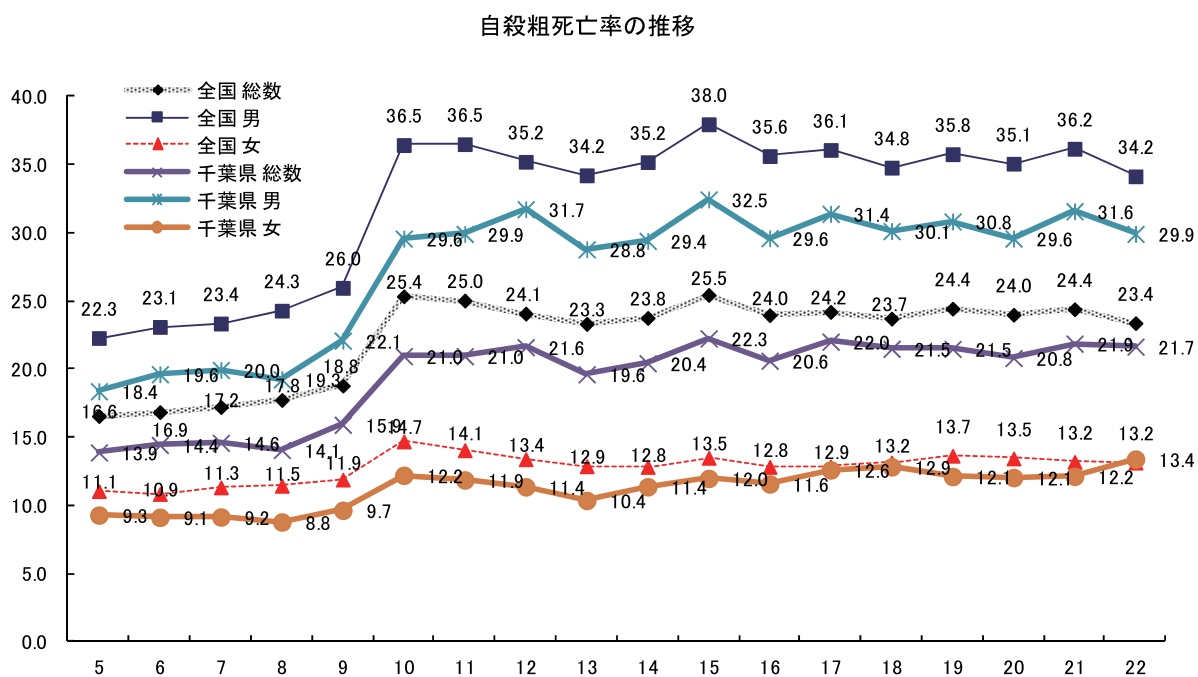
肺炎の粗死亡割合は、男性が女性よりやや高く、男女共に増加傾向です。慢性閉塞性肺疾患 COPD の粗死亡割合は、男性が女性より高く、男女共に横ばいです。



自殺の粗死亡割合は、男性は女性の2倍を超えています。



千葉県自殺死亡者の割合は男性が女性の2倍以上に及んでいます。全国に比べ死亡者の割合は低いものの、女性の自殺者の割合が徐々に増加傾向を示しています。



参考：e-stat 「人口動態調査」

☆年代別の主要死因

２００６年～２０１０年までの県の死亡状況によると、乳幼児期は先天性疾患が最も多く、不慮の事故、乳幼児突然死症候群などが主な死因となっています。少年期（５～１４歳）では、不慮の事故が最も多く、次いでがん、自殺、青年期（１５～２４歳）では、自殺が４割と最も多く、次いで不慮の事故、壮年期（２５～３９歳）では自殺が３割と最も多く、次いでがん、不慮の事故が主な死因となっています。

中年期（４０～６４歳）では、４割ががんで、次いで心疾患（高血圧を除く）、脳血管疾患、自殺、高齢期（６５～７４歳）では４割ががんで、次いで心疾患（高血圧を除く）、脳血管疾患、肺炎が主な死因となっています。長寿期（７５歳以上）ではがん、心疾患（高血圧を除く）、肺炎、脳血管疾患が主な死因となっています。

千葉県のリフステージ別死因順位（平成 18～22 年合計）

	幼年期 (0～4歳)	少年期 (5～14歳)	青年期 (15～24歳)	壮年期 (25～39歳)	中年期 (40～64歳)	高齢期 (65～74歳)	長寿期 (75歳以上)	総数
第1位	循環器系の先天奇形 14.0%	不慮の事故 26.9%	自殺 42.5%	自殺 34.9%	悪性新生物 44.0%	悪性新生物 45.2%	悪性新生物 23.2%	悪性新生物 30.6%
第2位	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害 9.5%	悪性新生物 19.6%	不慮の事故 26.2%	悪性新生物 17.6%	心疾患(高血圧性を除く) 14.4%	心疾患(高血圧性を除く) 14.9%	心疾患(高血圧性を除く) 19.5%	心疾患(高血圧性を除く) 17.5%
第3位	その他の先天奇形及び変形 8.5%	自殺 7.3%	悪性新生物 7.0%	不慮の事故 13.4%	脳血管疾患 8.8%	脳血管疾患 9.1%	肺炎 13.5%	脳血管疾患 10.8%
第4位	不慮の事故 7.2%	その他の新生物 6.1%	心疾患(高血圧性を除く) 4.9%	心疾患(高血圧性を除く) 11.2%	自殺 7.9%	肺炎 5.0%	脳血管疾患 12.2%	肺炎 9.7%
第5位	染色体異常、他に分類されないもの 6.4%	その他の神経系の疾患 6.1%	その他の外因 3.6%	脳血管疾患 4.7%	不慮の事故 4.1%	不慮の事故 2.8%	老衰 5.3%	老衰 3.3%
第6位	その他の症状・徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの 5.4%	循環器系の先天奇形 5.7%	その他の神経系の疾患 3.3%	その他の症状・徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの 2.5%	肝疾患 3.1%	その他の呼吸器系の疾患 2.7%	その他の呼吸器系の疾患 4.0%	その他の呼吸器系の疾患 3.2%
第7位	心疾患(高血圧性を除く) 4.2%	心疾患(高血圧性を除く) 4.5%	その他の症状・徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの 2.0%	肝疾患 1.8%	肺炎 2.1%	自殺 2.0%	不慮の事故 2.5%	不慮の事故 3.2%
第8位	乳幼児突然死症候群 4.2%	脳血管疾患 2.4%	その他の新生物 1.7%	その他の神経系の疾患 1.7%	その他の症状・徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの 1.9%	肝疾患 1.9%	腎不全 2.2%	自殺 2.8%
第9位	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害 3.8%	肺炎 2.4%	脳血管疾患 1.5%	肺炎 1.4%	糖尿病 1.5%	糖尿病 1.8%	その他の消化器系の疾患 1.8%	腎不全 1.7%
第10位	その他の呼吸器系の疾患 3.0%	その他の症状・徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの 2.4%	肺炎 0.9%	その他の外因 1.4%	その他の呼吸器系の疾患 1.2%	大動脈瘤及び解離 1.3%	慢性閉塞性肺疾患 1.5%	その他の消化器系の疾患 1.5%
その他	33.6%	16.3%	6.4%	9.5%	10.9%	13.4%	14.5%	15.9%
合計	100.0% (n=901)	100.0% (n=245)	100.0% (n=1076)	100.0% (n=4222)	100.0% (n=37289)	100.0% (n=45940)	100.0% (n=145536)	100.0% (n=235233)

資料：人口動態統計

※死因順位に用いる分類項目による。死亡割合が同率の場合は死因簡単分類のコード番号順に掲載している。

11位以下は10位と同率であっても掲載していない。

ライフステージ別死因順位(平成18～22年合計)

【千葉県(男性)】

	幼年期 (0～4歳)	少年期 (5～14歳)	青年期 (15～24歳)	壮年期 (25～39歳)	中年期 (40～64歳)	高齢期 (65～74歳)	長寿期 (75歳以上)	総数
第1位	循環器系の先天奇形 12.0%	不慮の事故 30.6%	自殺 42.6%	自殺 37.1%	悪性新生物 39.0%	悪性新生物 45.8%	悪性新生物 28.5%	悪性新生物 34.2%
第2位	その他の先天奇形及び変形 10.3%	悪性新生物 16.7%	不慮の事故 29.0%	不慮の事故 15.4%	心疾患(高血圧性を除く) 16.6%	心疾患(高血圧性を除く) 15.0%	心疾患(高血圧性を除く) 16.9%	心疾患(高血圧性を除く) 16.2%
第3位	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害 8.9%	自殺 9.7%	悪性新生物 5.8%	心疾患(高血圧性を除く) 13.4%	脳血管疾患 8.9%	脳血管疾患 8.9%	肺炎 14.6%	脳血管疾患 9.8%
第4位	不慮の事故 8.1%	循環器系の先天奇形 6.9%	心疾患(高血圧性を除く) 5.0%	悪性新生物 11.3%	自殺 8.7%	肺炎 5.3%	脳血管疾患 11.0%	肺炎 9.5%
第5位	その他の症状・徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの 7.0%	その他の新生物 6.3%	その他の外因 3.7%	脳血管疾患 5.0%	不慮の事故 4.5%	不慮の事故 2.8%	その他の呼吸器系の疾患 4.4%	自殺 3.6%
第6位	乳幼児突然死症候群 4.8%	心疾患(高血圧性を除く) 4.9%	その他の神経系の疾患 3.1%	その他の症状・徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの 2.8%	肝疾患 3.6%	その他の呼吸器系の疾患 2.8%	老衰 2.8%	不慮の事故 3.5%
第7位	染色体異常、他に分類されないもの 4.5%	その他の神経系の疾患 2.8%	その他の症状・徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの 2.1%	肝疾患 2.0%	その他の症状・徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの 2.4%	肝疾患 2.0%	不慮の事故 2.6%	その他の呼吸器系の疾患 3.3%
第8位	周産期に特異的な感染症 3.3%	脳血管疾患 2.8%	その他の新生物 1.5%	その他の神経系の疾患 1.6%	肺炎 2.3%	自殺 1.9%	慢性閉塞性肺疾患 2.6%	慢性閉塞性肺疾患 1.7%
第9位	心疾患(高血圧性を除く) 3.1%	その他の症状・徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの 2.8%	脳血管疾患 1.3%	その他の新生物 1.2%	糖尿病 1.8%	糖尿病 1.7%	腎不全 2.1%	肝疾患 1.6%
第10位	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害 3.1%	貧血 1.4%	循環器系の先天奇形 0.9%	肺炎 1.2%	その他の呼吸器系の疾患 1.2%	大動脈瘤及び解離 1.3%	その他の消化器系の疾患 1.5%	腎不全 1.6%
その他	34.9%	15.3%	4.9%	9.0%	11.0%	12.5%	12.9%	15.1%
合計	100% (n=516)	100% (n=144)	100% (n=753)	100% (n=2834)	100% (n=25587)	100% (n=31730)	100% (n=67885)	100% (n=129472)

資料: 人口動態統計

※死因順位に用いる分類項目による。死亡割合が同率の場合は死因簡単分類のコード番号順に掲載している。

11位以下は10位と同率であっても掲載していない。

ライフステージ別死因順位(平成18～22年合計)

【千葉県(女性)】

	幼年期 (0～4歳)	少年期 (5～14歳)	青年期 (15～24歳)	壮年期 (25～39歳)	中年期 (40～64歳)	高齢期 (65～74歳)	長寿期 (75歳以上)	総数
第1位	循環器系の先天奇形 16.6%	悪性新生物 23.8%	自殺 42.1%	自殺 30.5%	悪性新生物 55.1%	悪性新生物 43.9%	心疾患(高血圧性を除く) 21.7%	悪性新生物 26.1%
第2位	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害 10.4%	不慮の事故 21.8%	不慮の事故 19.8%	悪性新生物 30.3%	心疾患(高血圧性を除く) 9.5%	心疾患(高血圧性を除く) 14.7%	悪性新生物 18.6%	心疾患(高血圧性を除く) 19.1%
第3位	染色体異常、他に分類されないもの 9.1%	その他の神経系の疾患 10.9%	悪性新生物 9.6%	不慮の事故 9.3%	脳血管疾患 8.7%	脳血管疾患 9.7%	脳血管疾患 13.1%	脳血管疾患 12.0%
第4位	その他の先天奇形及び変形 6.2%	その他の新生物 5.9%	心疾患(高血圧性を除く) 4.6%	心疾患(高血圧性を除く) 6.6%	自殺 6.1%	肺炎 4.2%	肺炎 12.5%	肺炎 10.0%
第5位	不慮の事故 6.0%	心疾患(高血圧性を除く) 4.0%	その他の神経系の疾患 3.7%	脳血管疾患 4.0%	不慮の事故 3.2%	不慮の事故 2.9%	老衰 7.4%	老衰 5.5%
第6位	心疾患(高血圧性を除く) 5.7%	肺炎 4.0%	その他の外因 3.4%	その他の神経系の疾患 2.1%	肝疾患 1.8%	その他の呼吸器系の疾患 2.4%	その他の呼吸器系の疾患 3.6%	その他の呼吸器系の疾患 3.1%
第7位	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害 4.7%	循環器系の先天奇形 4.0%	その他の新生物 2.2%	その他の症状・徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの 2.0%	肺炎 1.7%	自殺 2.1%	不慮の事故 2.3%	不慮の事故 2.7%
第8位	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患 3.4%	自殺 4.0%	脳血管疾患 1.9%	その他の外因 1.9%	糖尿病 1.1%	糖尿病 1.8%	腎不全 2.2%	腎不全 1.9%
第9位	肺炎 3.4%	インフルエンザ 3.0%	その他の症状・徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの 1.9%	肺炎 1.8%	その他の呼吸器系の疾患 1.1%	肝疾患 1.7%	その他の消化器系の疾患 2.1%	その他の消化器系の疾患 1.8%
第10位	乳幼児突然死症候群 3.4%	他殺 3.0%	肺炎 1.5%	その他の精神及び行動の障害 1.5%	その他の神経系の疾患 1.0%	その他の消化器系の疾患 1.4%	糖尿病 1.2%	自殺 1.8%
その他	31.2%	15.8%	9.3%	10.0%	10.6%	15.2%	15.2%	16.1%
合計	100% (n=385)	100% (n=101)	100% (n=323)	100% (n=1388)	100% (n=11702)	100% (n=14210)	100% (n=77651)	100% (n=105761)

資料：人口動態統計

※死因順位に用いる分類項目による。死亡割合が同率の場合は死因简单分類のコード番号順に掲載している。

11位以下は10位と同率であっても掲載していない。